

は ま たん けん 播 磨 探 検

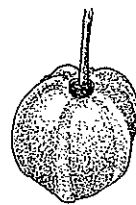
2021. 9. 13
311号
え・文 赤松弘一

そうほう
総苞

ボダイジュ
菩提樹
(シナノキ科)
学名 *Tilia
miqueliana*

果実

鶴林寺の菩提樹



ナツボダイジュ
夏菩提樹の実
(西宮市)
5本の縦稜がある

8月初め、何とか予約が取れたワクチン接種のために西宮市立中央体育館を訪れた。初任の教員時代を芦屋で過ごしたので、この界隈は震災後大きく変わっているが懐かしい。

体育館の敷地に、面白い形の実を付けた樹が生えていた。細長い葉のようなものから細い柄が伸びて実がぶら下がっている。これは図鑑で見た覚えがあるが、錆び付き始めた脳は名前を思い出せない。持ち帰って調べるとシナノキ科のボダイジュ（菩提樹）であるとわかった。植物はその種をより広く散布するために、種に甘い果実を付けて鳥や動物に食べられ、遠くに運ばれて種を糞と共に排泄されたり、鉤や粘液で動物について運ばれたりする他、種に羽を付けて風によって運ばれるという方法がある。菩提樹は総苞（そうほう）という葉のような薄い羽に種をぶら下げ、落下するときに総苞がプロペラのように回りながらゆっくり落ちることで、風の力を借りて種を遠くに運ぶ。風を利用する方法はタンポポやススキ、ユリなどの他、カエデやマツなどたくさんの植物が採用している。西宮で見つけたのはナツボダイジュで、実に5本の縦稜があるのが特徴である。

加古川の鶴林寺にもボダイジュがあると聞いて問い合わせると「花は5～6月ごろで、終わってしまいました」と言われた。「実を見たいのです」と答えたが、花を見にやってくる人は多いが、実を見に来る人はいないらしい。

「実ですか、ありますよ、拝観料 500 円です」 見たいのは実だけなのだが…

鶴林寺には2本のボダイジュがあった。共に実がついていて、まだ緑色で落果する様子はない。こちらは丸い実に明瞭な縦の稜はない。総苞を付けた状態で落としてみたが、かなりのスピードで落ちて、確かに回転はしたが「くるくるヘリコプターみたいに回りながら」とはいかない。もっと熟して乾燥し実が軽くなってから落果したら回るのだろう。

菩提樹と言えば、お釈迦様がその樹の下で悟りを開かれたと伝えられているが、その樹は正しくはクワ科のインドボダイジュであり、この菩提樹ではないらしい。日本の菩提樹は12世紀ごろに中国からインドボダイジュに似た菩提樹を留学僧が持ち帰ったといわれる。私はすでに悟ってしまっているのだから、拝観料に心乱れることもなく、もはや菩提樹の下で悟る必要はなかった。

フランスでは蝶も蛾も「papillon」です！

8月中旬に梅雨のような長雨が続いた。陽射しの無い灰色の空がコロナで沈む気分を一層暗くする。クマゼミは姿を消し、ツクツクボウシが夏の終わりを告げる中、23日に2学期が始まった。

学校の中庭に面した1階廊下のガラス窓に大きなスズメガがとまっているのに気付いた。枯葉のような地味な色で目立つ斑紋はない。写真を撮ってから中庭のツバキの木にとまらせた。調べるとクチバスズメであることが分かった。クチバは朽葉であり、その翅

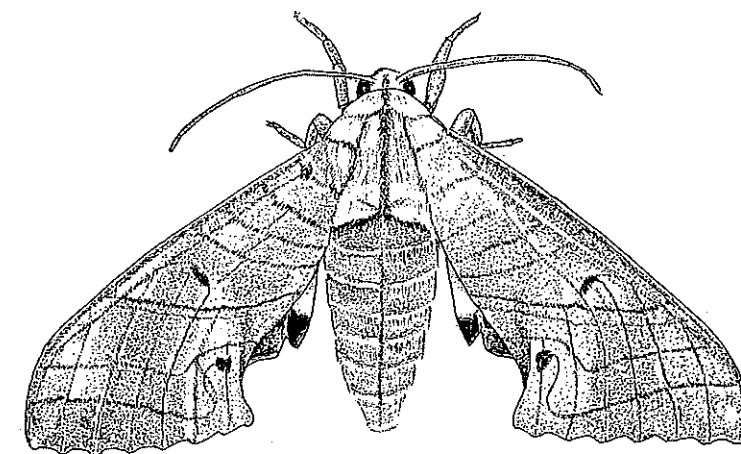
や体の色から納得できる名前だ。スズメガはスズメのように敏捷に飛ぶから雀蛾であるが、天蛾と表記する場合もあるようだ。オスはメスのフェロモンを感知するために触角が櫛状になっているが、見つけたのは直線状なのでメスである。

チョウにはお花畑が付き物である。チョウに出会うと、ハッと両手を胸の前で組んで「きれい！」と目を輝かせ、無条件に喜ぶ人を見かける。一方、ガには夜の裸電球が付き物で、見かけると「気味悪い！」と石をぶつけて不機嫌になる人がある。好き嫌いは自由だが、実はガもチョウも同じチョウ目（鱗翅目）に属しており、あまり明確な違いはない。触角がチョウは棍棒状であり、ガはそうならないぐらいの違いである。チョウはメジャーで、ガはマイナーな日陰者のように捉えられるが、鱗翅目の中でチョウの仲間は5%にすぎず、残り95%はガの仲間なのである。チョウの方がはるかに少数派なのだ。

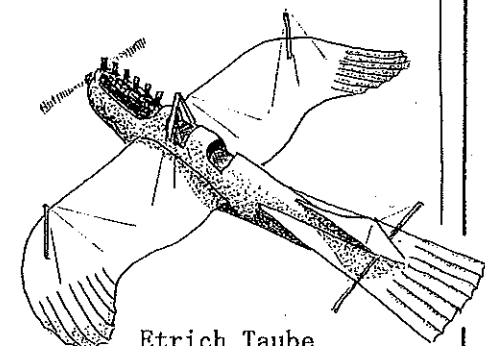
クチバスズメはスズメガの仲間でも最大級で、終齢幼虫は90mm近くにもなる。幼虫の食樹はクヌギやコナラの葉である。樹の下の地面に大豆ほどの黒い丸い糞が落ちていたら、葉や茎の上を探してみると幼虫が見つかるだろう。スズメガの幼虫はみな尾部にアンテナのような突起（尾角）があるので見分けやすい。終齢幼虫は夏の終わりにサナギになり土に潜って冬を越す。

スズメガの仲間は後退角のついた直線的な翅と流線型の太い胴体を持ち、ジェット機のような印象がある。実際、飛ぶのも速い。花の蜜を吸う時は翅を目に見えない速さで羽ばたき、ホバリングして空中停止しながら長い口吻を伸ばして吸う。そのための筋肉が発達し、胴体が太いのだといわれる。

クチバスズメの前翅はその先端が波型になっていて、ジェット機よりも、昔の木製布張りのクラシックな飛行機を思い浮かべるが……似てないか。



クチバスズメ (スズメガ科)
朽葉雀蛾 開帳 110 mm メス
学名 *Marumba sperchus*



Etrich Taube
(1910 オーストリア)